

大雲取越地蔵堂

大雲取越の地蔵茶屋跡からほど近いところに立っているのは地蔵堂です。この質素な建物には旅人を見守るといわれる地蔵菩薩の像が 32 体安置されています。

魚商人の寄進

現地の碑文によると、もとの地蔵堂とそこに納められた像は、1707 年に六兵衛という名の大坂・堺の魚商人によって寄進されました。お堂内部の像は当時のものですが、山中では無人の木造建築物は傷むのが早いため、お堂は定期的に建て替えられています。最後に建て替えが行われたのは 2015 年です。

もともと、地蔵堂には 33 体の像がありました。失われた 1 体の所在は分かっていません。地元で伝えられる一説によると、このお地蔵さまは熊野古道を歩き回り、困っている参詣者を密かに助けています。

修験道の地

地蔵堂には、山伏と呼ばれる修験道の行者がたびたび訪れます。修験道は、仏教・神道・道教の要素を組み合わせた伝統的な山岳信仰です。中世における熊野は修験道の一大拠点で、山伏は 500 年前に描かれた『那智参詣曼荼羅』という絵画にも登場するほどでした。

ここ数十年、青岸渡寺の副住職はこの地の修験道の復興に尽力してきました。山伏は春と夏に熊野の山に入って修行をし、様々な像や神社を通る際に碑伝と呼ばれる小さな木の札を置いていきます。この時期、地蔵堂には多くの碑伝が集まります。